

中部地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年8月 中部農林振興局

（中部農業改良普及センター）

目次

- I 管内農業・農村の主な動き (P2~4)
 - 1 令和8年度宮崎方式営農支援体制中部地区農業者研修会(植物生理、病害虫)
 - 2 就農に向けた支援
 - 3 新規就農者と定着支援アドバイザーとの意見交換会
 - 4 労働力確保に関する研修会
 - 5 令和8年度宮崎方式営農支援体制中部地区農業者研修会(意見交換会)
 - 6 かんしょ・さといも展示ほ現地調査
 - 7 さといも（石川早生）の種芋安定供給に関する意見交換会
 - 8 8月期子牛せり市
 - 9 宮崎中央家畜市場子牛品評会
 - 10 畜舎周辺の除草作業の省力化に関する調査
 - 11 営振協野菜部会天敵利用研修会
 - 12 極早生みかん果実一斉分析
 - 13 JAみやざき宮崎中央地区本部花卉連絡協議会総会
 - 14 トマトキバガ対策生産者説明会
- II 主な普及指導活動等の取組み
 - 1 地域プランに基づく普及活動 (P5~8)
 - 1 高岡トップレベル研修会
 - 2 新規就農者の就農状況調査（国富町）
 - 3 綾町施設野菜病害虫対策協議会 施設きゅうりにおけるウイルス病対策研修会
 - 4 きゅうり黄化えそ病（MYSV）対策講習会
 - 5 高岡、国富地区有志生産者によるきゅうり黄化えそ病対策講習会
 - 6 桃ノ木原地区散水器具実演会
 - 7 ベビーハンズにおける点滴チューブによる初期生育促進の試験ほ設置
 - 8 タマネギ育苗ほに散水チューブを設置
 - 9 新名爪地区タマネギ試験栽培に係る検討会
 - 10 管内の生産法人等を対象とする露地野菜の研修生受入体制に関する調査
 - 11 有機露地ナス圃場における害虫・天敵調査
 - 12 にんじん栽培基礎講習会
 - 13 綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会
 - 14 てん茶工場の現状と課題に関する聞取調査
 - 2 地域課題一覧に関する普及活動 (P8)
 - 1 飼料用イネ種子生産組合講習会
 - 2 JAみやざき宮崎中央地区本部ハウス金柑部会摘果講習会
 - 3 宮崎市SAP会議夏季大会

I 管内農業・農村の主な動き

1 令和8年度宮崎方式営農支援体制中部地区農業者研修会(植物生理、病害虫)

10日に「植物生理」、26日に「病害虫防除」に関する農業者研修を普及センターで実施し、それぞれ20名、16名が受講しました。

いずれの研修も栽培において重要となる内容を具体例を交えてわかりやすく理解する機会となりました。

今年度の農業経営管理研修については、本研修で終了となりますが、来年度以降もアンケート結果を基に、より充実した研修会開催に努めていきます。

なお、新規就農基礎及び経営発展研修は、9月以降も引き続き実施されます。



【研修会（病害虫防除）】

2 就農に向けた支援

8月は、就農相談を3名、就農計画検討会を2名（施設野菜2名）に対して実施しました。就農相談では、品目の特性が把握できているか、長期的な経営プランがあるか、相談者への質疑を通して確認し、意識するよう促しました。

また、就農計画検討会では、普及センターから計画に記載のある数値の根拠や、就農に向けた準備状況を確認しました。就農予定者からは、長期的な経営を見据え、資金繰りを意識する様子が見られました。

3 新規就農者と定着支援アドバイザーとの意見交換会

25日、清武町総合支所にて、新規就農者7名（就農5年以内）と清武地域の定着支援アドバイザー2名出席のもと、研修会および意見交換会が開催されました。

研修会では普及センターの園芸担当より、「アザミウマとコナジラミ対策」について講義が行われました。出席者は自身の経営に活かそうと、熱心に耳を傾けていました。

意見交換会では定着支援アドバイザーと新規就農者とのつながりだけでなく、品目の異なる新規就農者間のつながりもできたようでした。



【アザミウマ等対策研修会】

4 労働力確保に関する研修会

24日、田野地区交流センターにおいて、露地野菜農家に向けて開催され、約80名が参加しました。

研修会の第1部では機械の力を活用するスマート農業の動向に関する講演、第2部では外国人材の活用に関する講演、第3部では外国人材の活用における工夫や課題に関するトークセッション、その他、機械や畑かん資材の展示や個別相談会が行われました。

高齢化や人口減少にある中で、地域にあった労働力確保の手法を考えるきっかけになったようです。



【トークセッション】

5 令和8年度宮崎方式営農支援体制中部地区農業者研修会(意見交換会)

4日、新規就農者向けに「先輩農業者による体験談と意見交換会」を実施しました。

先輩農業者として宮崎県農業経営指導士2名と新規就農者1名（就農3年目）を講師に迎え、就農希望者15名からの質問に答えてもらったり、アドバイスを頂きました。

就農希望者からは具体的で非常に参考になったとの感想が寄せられました。また、先輩農業者と連絡先を交換する様子も見られ、新たなつながりもできたようでした。



【先輩農業者との意見交換】

6 かんしょ・さといも展示ほ現地調査

4日、国富町および綾町の展示圃場で現地調査を開催し、関係機関5名が参加しました。

調査では、現在の生育状況や各種栽培技術の導入状況を確認し、今後の技術普及や産地振興に向けた課題や方向性について情報共有を行いました。

現地調査を通して参加者間の理解が深まり、今後の効果的な技術普及活動につながる有意義な機会となりました。



【展示ほ現地調査】

7 さといも（石川早生）の種芋安定供給に関する意見交換会

17日、JAみやざき田野営農センターにおいて、関係機関や生産者代表など計12名を対象に開催しました。

他地域における種芋生産の現状や田野地域での調達リスクなどの課題について情報共有を行い、関係機関で現状の把握と整理を行いました。

参加者からは、「産地が抱える課題が明確になり、安定供給体制の構築に向けて一体となって取り組む共通認識を持てた。」との意見がありました。

今後は、課題解決に向けて田野地域において湛水栽培試験の実施を検討していきます。



【意見交換会】

8 8月期子牛せり市

19日と20日の2日間、宮崎中央家畜市場で開催され、合計537頭（雌：231頭、去勢：306頭）の出場がありました。

セリ前講習会では、JA畜産部長から概況等の説明、続いて普及センターからWCSの収穫、秋冬作の準備、暑熱の影響について講習を行いました。

子牛平均価格（税込）は、雌832千円（前回比65千円高）、去勢911千円（前回比55千円高）、総平均877千円（前回比60千円高）という結果になりました。

9 宮崎中央家畜市場子牛品評会

17日、JAみやざき宮崎中央地区本部と綾町地区本部との合同開催による9月期子牛せり市に向けた8月期子牛品評会が家畜市場で開催されました。

審査の結果、綾町地区本部の淵本太一氏の「ゆうり26」号（孔明桜産子）が優等1席を受賞しました。審査委員長の講評で「発育良好で体の幅、深さ、長さなど体積に優れており、体上線は強く輪郭鮮明で種牛性にも優れていた。」と評価されました。



【優等1席「ゆうり26」号】

10 畜舎周辺の除草作業の省力化に関する調査

20日、綾町の若手繁殖農家牛舎で、周辺雑草への除草剤と刈払機による除草後の再生状況調査を行いました。

周辺雑草はサシバエ等の繁殖場所になり、牛にストレスを与えるだけでなく、伝染病を媒介する可能性があります。また段差、石などの障害物が雑草で隠れるため作業安全上からも除草は重要です。

今回の調査で刈払機による除草と比較し、除草剤使用による作業の省力化を生産者も実感し、自ら他の場所での除草を開始するなど意識の変化がありました。

引き続き、雑草の再生状況を調査し除草の効果を検証していきます。



【左：除草剤、右：刈払機】

11 営振協野菜部会天敵利用研修会

28日、普及センターにおいて開催され、関係機関技術員32名（うちオンライン1名）が参加しました。

講師として、総合農業試験場黒木副場長を招き、果菜類における天敵の利用法について講習が行われました。

今後も管内果菜類の生産性向上に向けた取組を支援していきます。



【研修会】

12 極早生みかん果実一斉分析

20日、JAみやざき宮崎中央地区本部高岡営農センターにおいて、中部地区果樹技術員10名が参加し、実施しました。

管内全園地の果実分析（糖度・酸度）を行い、その結果に応じて収穫時期を判断していきます。本年度は7月の少雨の影響もあり、糖度が平年と比較し高い傾向にありました。

9月より収穫出荷が始まり、品質の良い果実を消費者にお届けできる見込みです。

13 JAみやざき宮崎中央地区本部花卉連絡協議会総会

20日、宮崎市において、生産者28名、関係機関13名が参加し、行われました。

普及センター所長から来賓祝辞を行い、生産者及び連絡協議会の発展を祈念しました。

その後、活動実績や収支決算、活動計画、収支予算、役員改選について検討が行われ、滞りなく会が進みました。

総会後に行われた懇親会では、関係機関、生産者の間で意見が交わされ、参加者の交流が深まりました。

今年度は、花き全般における高温対策や炭酸ガス施用効果の確認等について支援を行っていきます。



【総会】

14 トマトキバガ対策生産者説明会

21日に宮崎市中心卸売市場で、28日に普及センターで生産者及び関係者、合計約30名を対象に開催しました。

トマトキバガは、近年、管内の複数のトマトほ場で発生が確認されていることや対応が遅れると防除が困難であることなどから説明会を開催しました。

普及センターから、トマトキバガの概要、防虫ネットの設置・体系的な防除等の防除対策について説明を行い、参加者から活発な質問が出されました。

今後も引き続き、トマトキバガ対策の啓発及び支援を行って行きます。



【トマトキバガ対策説明会】

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組み

1 地域プランに基づく普及活動

【重1・日本一のきゅうり産地維持のための生産性と収益性の両立】

1 高岡トップレベル研修会

24日、JAみやざき高岡営農センターにて新規就農者向けに開催されました。

JA・普及センター職員による「きゅうり定植後の管理」「MYSV（黄化えそ病）対策」の講義と、個別経営分析会を実施しました。

個別経営分析では、収量や決算書に基づく前作の振り返りと次作の目標作成を行いました。受講者は自身の経営課題を明確に把握し、次作への意欲を高めている様子でした。

今後も関係機関と連携し、新規就農者の技術・経営一体となった支援を続けていきます。



【個別経営分析】

2 新規就農者の就農状況調査（国富町）

25日、国富町の農業次世代人材投資事業（経営開始型）、新規就農者育成総合対策事業（経営開始資金）受給者7名を対象に実施されました。

国富町と普及センターの担当者が受給者の圃場を巡回し、就農後の経営収支状況、栽培管理状況、経営上の問題点等について聞き取りを行いました。

聞き取りを通して、就農者自身による経営上の課題抽出、青色申告を活用した経営の振り返りの実施を促しました。

今回の調査結果を活用して、新規就農者の就農定着と経営安定に向けて、関係機関一丸となって支援していきます。



【就農状況調査】

3 綾町施設野菜病害虫対策協議会 施設きゅうりにおけるウイルス病対策研修会

20日、綾町有機農業開発センターにおいて、生産者約30名、関係機関約10名が参加し開催されました。

講師として、総合農業試験場黒木副場長を招き、きゅうり栽培で甚大な被害を及ぼしている「きゅうり黄化えそ病（MYSV）」の対策について研修が行われました。

普及センターからは、地域レベルで行う防除対策について説明を行いました。

今後も綾町きゅうりの生産性向上に向けた取組を支援していきます。



【研修会】

4 きゅうり黄化えそ病（MYSV）対策講習会

24日、国富町農村環境改善センターにおいて、生産者約30名、関係機関約10名が参加し、開催されました。

講師として、総合農業試験場黒木副場長を招き、講習が行われました。

普及センターからは、毎月作成している黄化えそ病（MYSV）対策のチラシ（定植前の除草）について説明を行いました。

今後も国富町きゅうりの生産性向上に向けた取組を支援していきます。

5 高岡、国富地区有志生産者によるきゅうり黄化えそ病対策講習会

3日、普及センターにおいて、生産者約19名、関係機関約5名が参加し、きゅうり黄化えそ病対策研修会が開催されました。

普及センターからは、黄化えそ病（MYSV）対策の総論や地域ぐるみで行う防除対策について説明を行いました。その後、黄化えそ病（MYSV）対策について活発な意見交換が行われました。

今後も黄化えそ病（MYSV）対策によるきゅうりの収益向上を支援していきます。



【研修会】

【重4・マーケットインに基づく土地利用型営農の振興】

6 桃ノ木原地区散水器具実演会

24日、田野町桃ノ木原地区で開催し、生産者含め関係者11名が参加しました。

実演会では、散水器具の種類、特徴、取扱の注意点等を説明したあと、実際に散水器具の実演をしました。工事実施中の地区での実演会は去年に引き続き実施しており、事業を活用した散水器具の導入が見込まれます。

参加した生産者からは、「実際に実物が見れてよかった」との意見がありました。



【散水器具実演会】

7 ベビーハンズにおける点滴チューブによる初期生育促進の試験ほ設置

18日、関係者3名で清武町のベビーハンズほ場に天敵チューブを設置しました。ベビーハンズは3～4年おきに6月に定植するため、梅雨明け以降の生育が水不足で停滞することが懸念されています。そのため、点滴チューブによるかん水が初期生育促進に効果があるかを検証する予定です。

生産者は「定植直後は特に梅雨明け時期と被っているので水の有効性が確認できるとありがたい。」と話されていました。

今後は、冬期まで生育状況を調査する予定です。



【設置した点滴チューブ】

8 タマネギ育苗ほに散水チューブを設置

25日、宮崎市柏原地区に設置しました。

柏原地区では、葉付きタマネギを栽培する予定ですが、育苗期が夏の高温時期と重なるため、高温、干ばつ対策としてかん水チューブを活用することとしています。

生産者は「初期は特に水が必要なので有効に活用していきたい」と話されていました。

今後も健全育苗及び良質な極早生タマネギの生産を支援していきます。



【設置したかん水チューブ】

9 新名爪地区タマネギ試験栽培に係る検討会

25日、宮崎市新名爪地区で開催され、関係者12名が参加しました。室内協議では、育苗時の注意点や極早生のリスク、ほ場準備や定植作業の注意点等を説明し、現地検討では、土壌硬度を測定するとともにほ場準備の段取りについて協議しました。

生産者は「初めての栽培のため、不安だが頑張っていきたい」と話されていました。

今後もタマネギの試験栽培の成功に向けて支援していきます。



【土壌硬度結果の説明】

10 管内の生産法人等を対象とする露地野菜の研修生受入体制に関する調査

28日、管内の生産法人1戸に対して、露地野菜における研修生受け入れや将来的なおれん分けの可能性について、聞き取りを行いました。

聞き取りを通して、農地や機械の確保など、露地野菜で独立就農する際の課題が出されましたが、就農する際の選択肢としても十分に考えられるなど、前向きな意見も出されました。

今後も、露地野菜での研修生受け入れ体制について検討を進めていきます。

【重5・有機農業の拡大による環境保全型農業の推進】

11 有機露地ナス圃場における害虫・天敵調査

7日、14日、31日に綾町内の有機露地ナス圃場において、実施しました。

この調査は、バンカー植物（ソルゴー、バジル、マリーゴールド）を導入することで、害虫であるミナミキイロアザミウマなどの飛来を抑制し、同時に天敵昆虫であるヒメハナカメムシなどの定着を促す効果を検証するものです。

今後は、これらの取り組みを通じてナスの食害軽減効果を実証し、地域における有機栽培技術としての普及・推進を図っていきます。



【天敵調査】

12 にんじん栽培基礎講習会

6日、綾町の綾オーガニックスクールにおいて、スクール生3名を対象に開催しました。

当日は、にんじんの栽培管理や黒葉枯病などの病虫害対策について具体的な説明を行いました。

参加者からは、「栽培の要点や病虫害対策を具体的に把握できたことで、今後の栽培に対する不安が解消され、実践への自信につながった」といった前向きな感想が寄せられ、技術習得に対する意欲の向上が図られました。

今後も、受講生の確実な栽培技術の習得に向け、定期的な講習会を継続して実施する予定です。



【にんじん栽培基礎講習会】

13 綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会

29日、（合）アヤオーガニックワークス事務所にて、関係者4名により開催されました。研修生の近況や実習・座学の進捗、国庫事業を活用した施設整備等について協議しました。普及センターは同スクールで基礎栽培技術の講義を担当しており、8月はニンジンの栽培研修会を行いました。今後も関係機関と連携して支援を継続します。

14 てん茶工場の現状と課題に関する聞取調査

10日、高岡町一里山地区で、今年度から稼働を開始したてん茶工場の代表者及び生産者へ一番茶製造終了後の現状と課題について調査を行いました。

調査では輸送体制や技術継承などの課題が挙げた一方で、高評価の品種や新たな乾燥技術の可能性など、今後の発展に向けた知見が得られました。

今後は、9月末からの秋冬番茶の製造に向けて、得られた課題を整理し、てん茶工場の安定運営に向けて支援してまいります。

2 地域課題一覧に関する普及活動

1 飼料用イネ種子生産組合講習会

5日、普通期でミナミユタカの生産を行っている塚原地区で、生産者15人を対象に栽培講習会を開催し水管理や病虫害防除の指導を行いました。

18日、早期作型の深年地区で種子生産農家9人と関係機関職員ら計25名で、ほ場審査を実施しました。審査では異株除去や倒伏、雑草等を確認し、生産者からは収穫時期の目安などの質問が出されました。

今後も各組合への技術支援を行い優良種子の生産に取り組んでいきます。

2 JAみやざき宮崎中央地区本部ハウス金柑部会摘果講習会

17、18日、管内ハウス金柑部会生産者ほ場において、生産者計34名、農薬メーカー3名、関係機関3名が参加し、各支部別で摘果講習会が開催されました。

JA指導員から当面の管理について説明があり、摘果について重点的に指導がありました。

普及センターからは高温対策展示ほ場として取り組んでいる頭上散水の降温効果について説明しました。

今後も引き続き関係機関と協力して支援していきます。



【摘果講習会】

3 宮崎市SAP会議夏季大会

25日、宮崎市役所にて開催され、SAP会員や新規就農者13名を含む計32名が参加しました。

管内のベテラン生産者を講師に招き、「過去と現在の農業の違い」や「経営に必要なスキル」など実践的なノウハウについて御講演いただきました。経験に基づく貴重な知見を得たことで、参加者は自身の経営課題に気づき、改善に向けた意識を強く高めていました。

今後、参加者らの農業経営がますます発展していくものと思われます。

宮崎県農林水産業ナビ

～ひなたMAFIN～

ひなたマフィン

検索

情報満載！ぜひアクセスを！⇒

